

KYOTO EXPERIMENT Office  
6F 7th Hase Bldg.  
229-2 Shoshoi-cho, Nakagyo-ku, Kyoto  
604-0862 JAPAN  
Tel +81 75 213 5839 Fax +81 75 213 5849

## KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭 2021 AUTUMN プログラム発表

広報に関するお問合せ先 ☎ KYOTO EXPERIMENT 事務局（広報担当：豊山、前田）

Tel: 075-213-5839 Mail: [pr@kyoto-ex.jp](mailto:pr@kyoto-ex.jp)

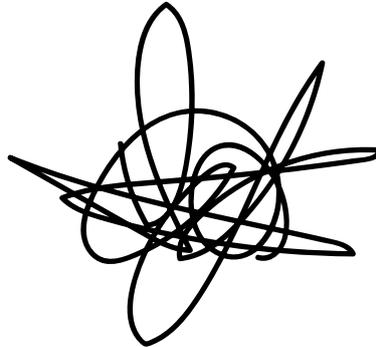
※本資料に掲載の画像をご使用希望の場合は上記までご連絡ください。

その他のお問合せ ☎ KYOTO EXPERIMENT 事務局

☎ 604-0862 京都市中京区少将井町 229-2 第7長谷ビル 6F

Tel: 075-213-5839 (11:00-19:00 日曜・祝日休 [開催期間中は無休]) Fax: 075-213-5849

Mail: [info@kyoto-ex.jp](mailto:info@kyoto-ex.jp) <https://kyoto-ex.jp>



## KYOTO EXPERIMENT とは

KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭は、  
2010年より毎年京都市内で開催している国際舞台芸術祭です。  
国内外の「EXPERIMENT(エクスペリメント)=実験」的な舞台芸術を創造・発信し、  
芸術表現と社会を、新しい形の対話でつなぐことを目指しています。  
演劇、ダンス、音楽、美術、デザイン、建築などジャンルを横断した実験的表現が集まり、  
そこから生まれる創造、体験、思考を通じて、舞台芸術の新たな可能性をひらいていきます。

※プレスリリースは、ウェブサイトよりダウンロードできます。

<https://kyoto-ex.jp>

※広報用画像は、ウェブサイト内プレスページにてパスワードを入力いただくと  
ダウンロードできます。パスワードは下記までお問合せください。

KYOTO EXPERIMENT 事務局 ( 広報担当：豊山、前田 )

Tel: 075-213-5839 (11:00-19:00 日曜・祝日休 [開催期間中は無休]) Mail: pr@kyoto-ex.jp

## 目次

p.4	開催趣旨、概要
p.5	ごあいさつ
p.6-7	ディレクターズ・メッセージ
p.8	フェスティバルを構成する3つのプログラム
p.9	Kansai Studies (リサーチプログラム)
p.10-20	Shows (上演プログラム)
	ホー・ツーニエン
	チェン・ティエンジュオ
	荒木優光
	ベギユム・エルジヤス
	ルリー・シャバラ
	和田ながら×やんツー
	フィリップ・ケーヌ
	松本奈々子、西本健吾 / チーム・チープロ
	鉄割アルバトロケット
	関かおり PUNCTUMUN
	Moshimoshi City
p.21-23	Super Knowledge for the Future [SKF] (エクスチェンジプログラム)
p.24-25	ミーティングポイント
p.26-27	関連プログラム、提携プログラム
p.28	More Experiments、ブックフェア
p.29	会場
p.30-31	チケット情報
p.32-33	スケジュール
p.34-35	開催クレジット

KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭では、  
 公益社団法人全国公立文化施設協会および、  
 各劇場の新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドラインに沿って、  
 感染拡大防止対策を講じ、  
 ご来場者の皆さま及びアーティスト、フェスティバル関係者の  
 安全と安心を確保することに努めて参ります。

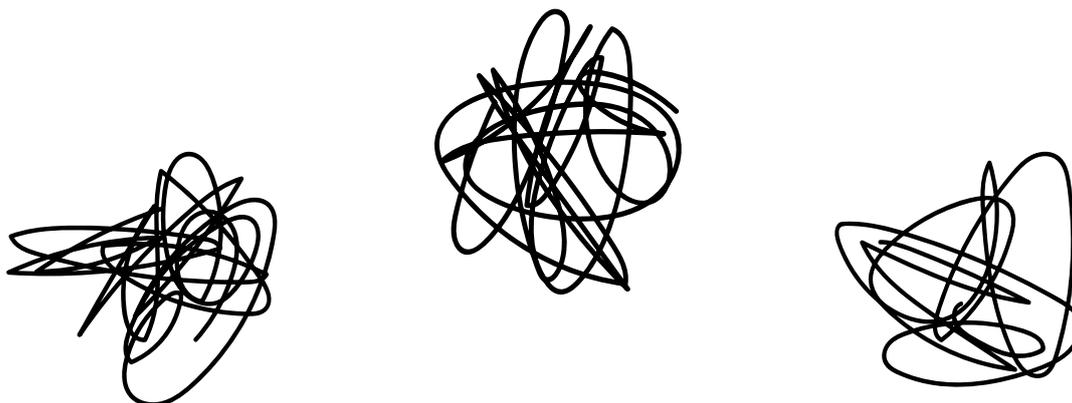
対応の詳細につきましては、会期前に KYOTO EXPERIMENT ウェブサイトに掲載いたしますので、  
 ご確認の上、ご来場いただきますようお願いいたします。

## 📖 開催趣旨

「KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭 2021 AUTUMN」を2021年10月1日-24日の24日間にわたり開催いたします。今回のフェスティバルは「もしもし?」をキーワードに展開します。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響によりオンラインでの対話や創作など、目の前には存在しない、不在の身体に呼びかけることが多くなったこの1年半。いまここにいる / いない他者の声や、いま起きている / 起きていない音にいかにかを傾けるのか、これまで以上に問われているのではないのでしょうか。「もしもし」と呼びかける主体はわたしなのか、それともわたしは呼びかけられているのか。そして、見えない「もしもし」の向こうをいかに想像していくのか。声・音・語り・静寂など多様な切り口から、これらを問い直す作品群の上演、リサーチ、エクスチェンジによる3つのプログラムで、見えない声、聞こえない音を発見していくことを目指します。

関西地域をアーティストとともにリサーチし未来の創作基盤につなげていく「Kansai Studies」、国内外の先鋭的なアーティストによる作品を上演するプログラム「Shows」、トークやワークショップなど鑑賞とは異なるフォーマットで、舞台芸術に限らず先端的な思考に触れる「Super Knowledge for the Future [SKF]」の3つのプログラムでフェスティバルを展開します。



## 📖 概要

会期 📖 2021年10月1日(金)-10月24日(日)

会場 📖 ロームシアター京都、京都芸術センター、京都芸術劇場 春秋座、  
THEATRE E9 KYOTO、京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA、比叡山ドライブウェイ ほか

主催 📖 京都国際舞台芸術祭実行委員会

[京都市、ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、  
京都芸術センター(公益財団法人京都市芸術文化協会)、  
京都芸術大学 舞台芸術研究センター、  
THEATRE E9 KYOTO(一般社団法人アーツシード京都)]

## ☞ ごあいさつ

### 京都市長ご挨拶

最先端で挑戦的なプログラムが並ぶ「KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭 2021 AUTUMN」。

コロナ禍の影響が続く中であっても、

新型コロナウイルス感染症対策を万全に開催の運びとなったことは、

私にとっても大きな喜びです。

文化や芸術は、人々の心の豊かさや活力の源泉。

そして、交流や他者との共感を通じて相互理解を深めるもの。

不安定な状況が続くウィズコロナ社会にあって、不可欠な営みだと確信しております。

常に変化し、挑戦を続ける「KYOTO EXPERIMENT」で、

今まで目にしたことのない、個性溢れる表現を多くの方々に体感いただきたい。

また、多様性、重層性に富んだ文化が息づく京都を舞台に開催されるこの芸術祭が、

様々な価値観を楽しむ機会になることに、大いに期待を寄せるものであります。

結びに、開催にご尽力いただいた、天野文雄委員長をはじめとする実行委員会の方々、

並びに全ての関係者の皆様に厚く御礼申し上げますとともに、

この芸術祭が来場者の皆様にとって実り多きものになりますことを、心から祈念いたします。

京都市長 門川大作

### 「見えない声」を聞き、「聞こえない音」を聞く

「ワクチンは?」「1回目はね」、こんな会話を耳にすることが多くなった時期に、この挨拶文を書いています。

まさか、KYOTO EXPERIMENT 2021 AUTUMNにまで

新型コロナウイルス感染症の影響が及ぶとは思っていませんでしたが、

思えば、約100年前のスペインかぜは終息までに3年を要したのです。

われながら見通しが甘かった、というより、いかに歴史に学んでいなかったかを思い知らされています。

歴史に学び、現在を見定め、未来を予見するのが文化芸術に携わる者の仕事であるのに、です。

今回で12回目となるKYOTO EXPERIMENTは、

「もしもし?! moshi moshi?!」というキーワードをかかげていますが、

これはほんとうは見えているのに「見えない声」を聞き、

聞こえているのに「聞こえない音」を聞こうということをめざしています。

これは「無心の心」という、古来、無数の芸術家がめざしてきた高い境地にも通じるものですが、

必要以上にグローバル化してしまった今日においては、芸術家個人の境地だけではなく、

社会、国家、世界を視野に入れた規模の「もしもし」が求められていると思います。

現在の舞台芸術にはとりわけこのような課題に対する回答が期待されているのです。

京都国際舞台芸術祭実行委員長 天野文雄

## ☞ ディレクターズ・メッセージ

KYOTO EXPERIMENT は今回で12回目を数え、2021年は春に続けて秋の開催となる。1年のうちに春期・秋期と開催することで、秋のフェスティバルが春期からの発展になるのみならず、春期の試みを再発見するような関係性を生み出すことを考えている。共同ディレクター体制となり、初めて迎えた春のフェスティバルで試みたことは、このフェスティバルで問うべき舞台芸術の実験とは何か、を体現する作品群の上演と、これからのフェスティバルの土壌を耕し、より開いていくためのリサーチとエクステンジであった。これらのプログラムを、Kansai Studies (リサーチプログラム)、Shows (上演プログラム)、Super Knowledge for the Future [SKF] (エクステンジプログラム)と名付け、フェスティバルを構成する3つのプログラムとして組み合わせて実施した。そこで見出したことのひとつは、地域性と国際性、親密さとオープンであること、即興性と再現性などをこのKYOTO EXPERIMENTという実験的表現の実践空間に持ち込むことで、それらが内包するあらゆる境界線がゆるやかにになっていくということだった。全てが白とも黒とも決めつけられない、ゆるやかな場所は、同時にこれから先も変化するものであり、過去、現在、未来が混在している。

秋のKYOTO EXPERIMENTを迎えるにあたり、観客のみなさんと共に、過去、現在、未来が混在するこのフェスティバルという場所で、急激に変化する「いま」をどのようにまなざすことができるか、ということを考えたいと思った。パンデミックという危機の時代における「いま」は、どう生き抜くかという切実な問いをはらんでいるものであり、同時に聞かれないもの、見えないものをその切実さの下に覆い隠してしまうものでもある。危機的ないまをどうまなざすかということは、聞き過ぎられているもの、見過ごされているものをどう感じ取るかということであり、それによりどう過去を振り返り、未来への視点を獲得することができるか、ということではないだろうか。

こうした探究を深めるキーワードとして、「もしもし?」を置いてみた。この言葉は、日本語では電話の応対で用いるものである。「もしもし?」という言葉が内包するのは、ある身体から発せられる声の存在そのものであり、同時に向こう側で断ち切れ、聞かれないその声でもある。あるいはこの言葉は、まだ誰にも聞かれていない声を持つ、他者への呼びかけであるかもしれない。声は、肺から口に伝達し発せられるものであるが、言葉となるものであり、あるいは叫ぶこと、泣くこと、ため息、笑いにもなるものである。人間の声は、定義によると特定の人体、つまり個人に属する。声は個人的なものであり、個人のアイデンティティの下に横たわるものである。今回のKYOTO EXPERIMENTでは、聞かれなかった声、内なる声、過去と未来の声、人間のものではない声、声と身体との関係性、あるいは集合的な声と身体の関係性に注目して、私たちがいま置かれているこの時を考える場にしたい。

今回 Shows で紹介する作品のいくつかは、個人的かつ親密な性質を持つ声を使って、観客それぞれとの関係性をパフォーマンスにより生み出す。ホー・ツーニエンによる『ヴォイス・オブ・ヴォイドー虚無の声』では、3DアニメーションとVRテクノロジーにより京都学派のテキストにアプローチする。ここでは歴史を再訪し、過去の声を現代に再現することで、現代の我々の視点における、疑いなき過去からの影響があらわになるのである。ベギウム・エルジャスによる『Voicing Pieces』においては、観客は自分だけのサウンドブースの中でシンプルなスコアに導かれることにより、自らの声の観察者ともなる。それは、私たちの「内なる声」または自らの中に存在する「他者の声」への問いを発することでもある。野外パフォーマンス・プロジェクト「Moshimoshi City」では、京都という街における想像上のパフォーマンスを、アーティストたちが声のみによって立ち上げる。

また、声は、話すことと同義ではなく、音を発するものでもある。いくつかの作品では、音について探求し、あるいは音と声の境界線を探っている。ここでは、集まって「聞く」体験が重要になるだろう。荒木優光による新作では、カスタムオーディオシステムを施された車たちが「出演者」となり、比叡山の頂上に来る。ルリー・シャバラは、自身が生み出した即興コーラスシステム「ラウン・ジャガッ」により、人間の声を楽器とすること、その声が民主的かつ集合的な力を持つことを探求する。チェン・ティエンジュオによる新作展示とライブパフォーマンスでは、クラブやレイブカルチャーと儀式や宗教の間を探求する。ここで探求される集合的な身体は、ひとつの空間に同時に存在する身体がある、ということであり、それは人が集まって「聞く」体験につながるのである。

Shows のほかの作品群では、他者の声とパフォーマーの身体の関係性を探る。和田ながらとやんツのコラボレーションによる『擬婉』では、父親が妊娠中のパートナーの身体の微候や妊娠にまつわる行為を模倣する「擬婉」という慣習を、パフォーマーの身体と声を通してシミュレートする。パフォーマンスユニット、チーム・チープロは「ワルツ」をテーマに関西地域で幅広いサーチを行いながら、メンバーである松本奈々子の個人的歴史を重ね合わせて新作を発表する。ここで扱われるのは、身体記憶を通して生み出され、発話されるテキストだ。鉄割アルバトロケットの作品は、社会の周縁に生きるさまざまな人々を、矢継ぎ早に繰り出すショートコントのような形式を用いて描き出す。パフォーマーたちの強い身体性を通して発されるユニークな発声の声、その方言や言葉遊びは、声にひそむ雄弁な力を感じさせる。

そうした作品群と対照的かつ異なる軸として、関かおりの作品においては知覚機能の深さと非言語のコミュニケーションが重要である。そこでは、非常に微かな動きと音が繊細に積み重ねられ、観客は自らの身体知覚をも研ぎ澄ませながら引き伸ばされた時間を体験するとともに、人間、動物、植物の境界線の間を行き来するような感覚を味わう。フィリップ・ケヌによるパフォーマンスでは、人間も言語も存在しない巨大なもぐらの世界での非言語コミュニケーションが描かれる。

これらの作品をフェスティバルの参加者たる観客のみなさんと共有するためには、作品の提示のみならず、その作品が生まれてくる背景や、その素地をこのフェスティバルで体験する機会を創ることが重要だと考えている。アーティストは社会に「異なる視点」を投げ込む存在でもあるが、必ずその作品を育む社会背景や文脈と接続しているはずだ。どんな作品でも、その背景には必ず何かしらの社会や思考が存在している。それは、いまこの日常を生きているわたしたちと、そう相違がないはずなのだ。では、なぜそのような作品が生まれてくるか？それを紐解き、あるいは見るものの目線で新たな思考を生み出していくために、京都・関西というこの地域でどのような文化が育まれてきたのかをアーティストの目線でリサーチ・共有する「Kansai Studies」、そして異分野の専門家を招いて多様な思考を体験する「Super Knowledge for the Future [SKF]」を今回も実施する。これらのプログラムが、フェスティバルの思考を育む手がかりとなることを目指している。

この1年半の間、パンデミックにより身体が容易に移動できず、また集まれない中、身体から離れた声は移動を重ね、集まりを重ねた。今回のフェスティバルのキーワード「もしもし?!」が観客のみなさんにとって多様な声を発見し、それにより私たちのいまを見出すきっかけになることを願っている。

## ☞ フェスティバルを構成する3つのプログラム

カンサイ・スタディーズ

### ① **Kansai Studies (リサーチプログラム)**

京都発の国際フェスティバルとして、自分たちが立脚する「地域」について自覚的に捉え、フィールドワークを通して探求するプログラム。アーティストが中心となり、地域住民やプロデューサー、研究者と一緒に、京都や関西の文化を継続的にリサーチしていきます。活動を通じて生まれた思考の軌跡やプロセスは特設ウェブサイトにも蓄積され、誰もがアクセスできるオンライン図書館として公開。未来のクリエイターや企画のためのナレッジベースや実験場、アイデアソースとなることを目指します。

ショウズ

### ② **Shows (上演プログラム)**

国内外から先鋭的なアーティストを迎え、いま注目すべき舞台芸術作品を上演するプログラム。京都および関西における舞台芸術の変遷と動向に注目しながら、ダンス、演劇、音楽、美術といったジャンルを越境した実験的作品を紹介します。

#### ☞ 参加アーティスト

ホー・ツーニエン [シンガポール | 展示]

チェン・テイエンジュオ [中国 | 展示・パフォーマンス]

荒木優光 [日本 | 音楽]

ベギュム・エルジャス [トルコ/ベルギー/ドイツ | パフォーマンス]

ルリー・シャバラ [インドネシア | 音楽・パフォーマンス]

和田ながら×やんツー [日本 | 演劇・美術]

フィリップ・ケーヌ [フランス | 演劇]

松本奈々子、西本健吾 / チーム・チープロ [日本 | ダンス]

鉄割アルバトロケット [日本 | 演劇]

関かおり PUNCTUMUN [日本 | ダンス]

Moshimoshi City [日本 | パフォーマンス]

(テキスト：岡田利規、神里雄大、中間アヤカ、ヒスロム、増田美佳、村川拓也)

スーパー・ナレッジ・フォー・ザ・フューチャー

### ③ **Super Knowledge for the Future [SKF] (エクスチェンジプログラム)**

アーティストは未来を予見する!? とりわけ実験的な舞台芸術作品と社会を対話やワークショップを通してつなぎ、新たな思考や対話、フレッシュな問題提起など、未来への視点を獲得していくプログラム。実験的表現が映し出す社会課題や問題をともに考え、議論し、現代社会に必要な智恵や知識を深めていきます。ここで獲得できるスーパー知識(ナレッジ)は、予測不能な未来にしなやかに立ち向かうための拠り所となるはずです!

## Kansai Studies

Kansai Studies は、KYOTO EXPERIMENT を構成する 3 つのプログラムのひとつであり、リサーチを主体としている。京都をはじめとした関西の地域文化を、アーティストが中心となってリサーチし、そのプロセスで起こった出来事や思考、発見を、テキストや写真、動画を通して記録・蓄積していく。1 年目となった 2020 年度は私たちの暮らしに欠かすことのできない「水」をテーマに琵琶湖をリサーチし、その過程や記録を特設ウェブサイト ([kansai-studies.com](http://kansai-studies.com)) で公開中だ。

2 年目をむかえる 2021 年度は、「水」の視点から発展した生活文化のひとつとして、「食事」をテーマに関西になじみの深い「お好み焼き」をリサーチ。1 年目に引き続き、大阪を拠点とする建築家ユニット [dot architects](http://dotarchitects.com) と、京都を拠点とする演出家の和田ながらが中心となり、「お好み焼き」を起点に関西の歴史や感性のあり方に迫る。街ごとに微細に異なるメニューや命名の謎についてなど多角的にアプローチを開始。アウトプット形式を事前に決めずに作りながら考え、その過程も公開しながら、数年かけてリサーチを続けていくことが特徴だ。フェスティバル期間中には、経過報告を兼ねたパブリックイベントを開催予定。



# KANSAI STUDIES

Kansai Studies 特設サイト  
[kansai-studies.com](http://kansai-studies.com)

リサーチメンバー：  
[dot architects](http://dotarchitects.com)、和田ながら、今村達紀、小島寛大、川崎陽子、塚原悠也、ジュリエット・礼子・ナップ

### dot architects

建築家ユニット。大阪・北加賀屋にて、アート、オルタナティブ・メディア、アーカイブ、建築、地域研究、サークル、NPO など、分野にとらわれない人々や組織が集まる「もうひとつの社会を実践するための協働スタジオ」コーポ北加賀屋を拠点に活動。設計、施工のプロセスにおいて専門家・非専門家に関わらず様々な人との協働を実践している。設計だけに留まらず、現場施工、リサーチプロジェクト、アートプロジェクトなど様々な企画にもかかわる。第 15 回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展 (2016) にて審査員特別表彰を受賞 (日本館出展作家)。これまでも KYOTO EXPERIMENT ではデザインチーム [UMA / design farm](http://uma-designfarm.com) とのリサーチプロジェクト「[researchlight](http://researchlight.com)」を展開。現在のメンバーは家成俊勝、赤代武志、土井亘、寺田英史、宮地敬子、池田藍、石田知弘の 7 名。



### 和田ながら Nagara Wada

プロフィールは [p.14](#) 参照

## 📺 Shows

ホー・ツーニエン [シンガポール | 展示]

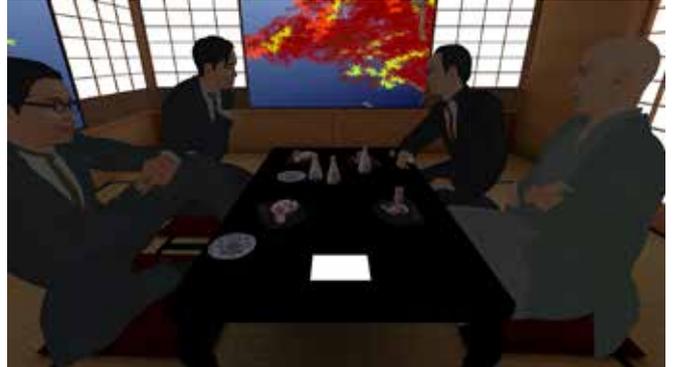
### ヴォイス・オブ・ヴォイド—虚無の声 YCAMとのコラボレーション

Voice of Void  
In collaboration with YCAM

10.1 (金) - 10.24 (日) 10:00 - 20:00

\* 10.1 (金)のみ 22:00まで

★10.3 (日)アーティスト・トーク



VR映像の一部

Courtesy of Yamaguchi Center for Arts and Media [YCAM]

会場 📺 京都芸術センター ギャラリー南、  
大広間、和室「明倫」、制作室4ほか

### VRや3Dアニメを用いて、戦時下の「声」を蘇らせる

シンガポール出身のホー・ツーニエンは、歴史的、哲学的なテキストや素材から、映像作品や演劇的パフォーマンスを発表してきたアーティスト。近年は東南アジアの近現代史につながる、第二次世界大戦期の日本に関心を払っており、その新作が「京都学派」(西田幾多郎 [1870~1945]や田辺元 [1885~1962]を中心に京都帝国大学で形成された知識人のグループ)をテーマにした映像/VRインスタレーション。山口情報芸術センター[YCAM]での展覧会に続き、今回、作品テーマと深く関わりのある京都で展示を行う。

作品では主に、京都学派の4人の思想家が真珠湾攻撃の直前、1941年11月末に京都・東山の料亭で行った座談会の記録と、同時代の関連テキストや証言を読み解いていく。結果として、太平洋戦争を思想面で支えたと批判も受ける京都学派だが、ここで行うのは歴史の単純化でも、論理の糾弾でもない。3Dアニメーション、日本のアニメの美学を融合させたVRによって、鑑賞者をアニメーションの登場人物へと同一化させながら、「歴史の再演」を目撃させていく。会場は明治初期に開校し、1931年に改築された旧小学校。「過去からの声」を蘇らせるための格好の舞台装置となるに違いない。

制作：山口情報芸術センター[YCAM]

共同制作：カディスト・アジア3ヵ年プログラム「Frequency of Tradition」、TPAM - 国際舞台芸術ミーティング in 横浜



Photo by Matthew Teo  
Courtesy of Art Review Asia

#### ホー・ツーニエン Ho Tzu Nyen

シンガポール生まれ。さまざまな歴史的、哲学的テキストや素材との出会いから出発して映画や映像作品、インスタレーション、演劇的パフォーマンスを制作している。近年の作品では、トラ人間(「一頭あるいは数頭のトラ」、2017)、三重スパイおよび裏切り者(「名のない人」、2015と「神祕のライ・テク」、2018)といった変容する登場人物たちを扱っている。2011年ヴェネツィア・ビエンナーレのシンガポール館での個展をはじめとして、多くの国際的な美術展や舞台芸術祭、映画祭に招待されている。

## チェン・ティエンジュオ [中国 | 展示・パフォーマンス]

### 牧羊人

新作

The Shepherd

#### [展示]

10.1(金) 16:00 - 22:00 ニュイ・ブランシュ特別プレビュー

10.5(火) - 10.31(日) 11:00 - 19:00 (月曜休館)

#### [ライブパフォーマンス]

10.2(土) 20:00

10.3(日) 20:00

上演時間 180分 (予定)

\* 10.2,3はライブパフォーマンス準備のため展示は公演チケット購入者のみ入場可。

会場 京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA



Photo by Ren Xingxing

### アートとサブカル、宗教の境界線がとけ合う祝祭に飛び込め!

ロンドンで現代アートを学び、映像やパフォーマンスを中心に、デザイン、ファッション、電子音楽などを自由に横断しながら活動する中国ミレニアル世代の旗手、チェン・ティエンジュオ。今回のために、中国からリモートで新作のパフォーマティブ・インスタレーションを制作し、広々としたギャラリーに、神秘的な宗教儀式とレイブパーティが混濁したような“祝祭的”空間を出現させる。

エログロでキッチュ、クイアで恍惚に満ちた世界は、チベット系仏教の信者であり、ヨーロッパのクラブカルチャーにも精通するティエンジュオの精神世界の表象でもある。会期中には3時間におよぶチェンのディレクションによる音楽ライブとDJパフォーマンスも上演し、鑑賞者をさらなるトランス状態へと誘ってくれることだろう。宗教がアートの起源のひとつである以上、人間の欲望、本能が投影されたコマーシャリズムやクリエーションも、聖なる存在の合わせ鏡なのかもしれない……。と小難しいことはさておき、まずは目の前の異世界にどっぷりと身を浸し、自らの自我を解き放ってみては。

企画：KYOTO EXPERIMENT、京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA

制作：partner in crime

主催：京都国際舞台芸術祭実行委員会、京都市立芸術大学



#### チェン・ティエンジュオ Tianzhuo Chen

1985年北京生まれ。ロンドンのセントラル・セント・マーチンズでグラフィックデザインの学位、チェルシー・カレッジ・オブ・アートでファインアートの修士号を取得。2012年に帰国後は中国で複数の展覧会を開催した。2015年、バリのパレド・トーキョーにて、海外で初めての個展を開催。ヴィジュアルアーツ作品のほか、パフォーマンス作品も制作している。チェンのオブジェクトやパフォーマンス、映像作品は、カラフルでグロテスク、キッチュなイメージを用いてアジアの心靈主義やLGBT、イコノグラフィー、舞踏、ヴォーギングやクラブカルチャーについて直接的に言及し、消費主義や超越主義といったテーマに触れながら我々を取り巻く道徳的態度の崩壊と信念との間を接続する。チェンの作品は、厳密に台本に沿ったストーリーや思考、政治的声明と、現代のクラブ文化やカウンターカルチャーに関わるセルフ・エンパワメントの儀礼化された出来事とを織り交ぜる。

荒木優光 [日本 | 音楽]

新作

## サウンドトラックフォーミッドナイト屯

Soundtrack for Midnight TAMURO

10.1 (金) 15:00 受付開始 / 15:50 受付終了 / 16:00 出発

10.2 (土) 15:00 受付開始 / 15:50 受付終了 / 16:00 出発

10.3 (日) 15:00 受付開始 / 15:50 受付終了 / 16:00 出発

会場 比叡山ドライブウェイ 山頂駐車場

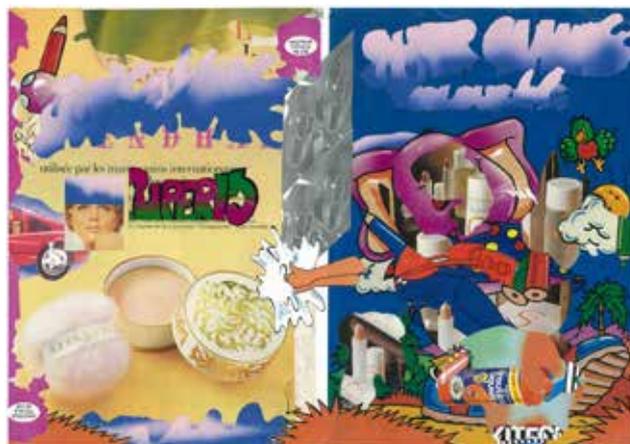
受付場所：ロームシアター京都 ローム・スクエア内

KYOTO EXPERIMENT ミーティングポイント

\*ロームシアター京都 ローム・スクエアにて受付・集合し、会場まで専用バスで移動

\*バスが受付場所に戻るのには 20:00 頃を予定しています。

上演時間 50 分 (予定)



アートワーク by © 栗原ベダル

### カスタムオーディオカーによる楽団が誕生。山上に鳴り渡るサウンドの饗宴

音の体験やフィールドワークを起点に、独自の音空間を構築してきた荒木優光。シアターピースやインスタレーション作品を発表するほか、記録にまつわる作業集団 ARCHIVES PAY、音楽グループ NEW MANUKE のメンバーとしても活動する。今回、新作のモチーフとして荒木が興味を持ったのが「カスタムオーディオカー」。理想のサウンドを追求し、音響システムとビジュアルに粋を尽くしたあのクルマたちだ。夕闇に染まる比叡山の駐車場を舞台に、カスタムオーディオカーによるコンサートが開かれる。

都市の中では、実力をフルに発揮できないオーディオカーたちも、山の中なら遠慮は無用。荒木が“郊外の駐車場”から発想を飛躍させ、アンダーグラウンド・カルチャーを取り込みながら作曲する組曲を、比叡の谷間に存分に鳴り響かせていく。京の街を離れ、非日常の空間へと次第に近づいていく、道中のドライブも合わせて楽しんでほしい。



Photo by Bea Borgers

#### 荒木優光 Masamitsu Araki

1981年山形県生まれ。京都拠点。アーティスト、サウンドデザイナー。音の体験やフィールドワークを起点として独自の音場空間を構築する。近年は視聴覚空間の多様性を踏まえ、新たなフェーズとしての「再生」を軸として実践と考察を進める。近作に、個展「わたしとゾンビ」(京都市京セラ美術館 ザ・トライアングル、2020) など。2013年初演の「パブリックアドレス - 音場」が2021年、クンステン・フェスティバル・デザールに招聘された。またサウンドデザイナーとしてアーティストとのコラボレーションも多く、記録にまつわる作業集団 ARCHIVES PAY、音楽グループ NEW MANUKE のメンバーとしても活動する。

## ベギウム・エルジャス [トルコ/ベルギー/ドイツ | パフォーマンス]

### Voicing Pieces

10.7(木) - 10.11(月) 12:00 - 19:00

\* 15分毎に1名ずつ入場。

会場  ロームシアター京都 ノースホール

上演時間  30分



© Begüm Erciyas

### 自分の声を通して、内在する他者と出会う

録音などを通して客観的に聴く自分の声を、不気味に感じた経験はないだろうか？ 物理的には、普段と音の伝わり方が違うだけなのだが、そこに留まらない「得体の知れなさ」が存在し、それこそがベギウム・エルジャスが『Voicing Pieces』を通して捉えようとするものだ。

エルジャスは、トルコで分子生物学と遺伝子学を、ヨーロッパでコンテンポラリーダンスを学んだ異色の経歴を持つ振付家・パフォーマー。本作は2014年に京都で滞在制作をした際のリサーチが元になっており、7年の時を経て待望の日本初演を迎える（着想を日本のひとりカラオケから得たという！）。観客は、劇場内に設置されたブースをひとりでめぐりながら、提示されるテキストを読み上げ、その「声」を外部情報として聴く体験をする。それは、観客自身がパフォーマーになると同時に、観客となる演劇体験でもある。ある人は、自己に内在する「他者」を初めて認識するかもしれないし、また、自分の声を無遠慮な「他者の声」のように感じるかもしれない。コロナ禍で会えない状況が続く今、声がコミュニケーションで果たす役割はとて大きい。体験者にさまざまな気づきを与えてくれることだろう。



Photo by Bea Borgers

#### ベギウム・エルジャス Begüm Erciyas

トルコ、アンカラ生まれ。アンカラで分子生物学と遺伝子学を学びながら、様々なダンスプロジェクトに関わるようになり、パフォーミング・アーツのリサーチ・プロジェクトグループ「laboratuar」に加わる。その後、オーストリアのザルツブルグ・エクスペリメンタル・アカデミー・オブ・ダンスで学んだ。2007-2008年には Akademie Schloss Solitude、2009年には K3- Zentrum für Choreographie Hamburg、2014年には京都のゲーテ・インスティトゥート・ヴィラ鴨川でアーティスト・イン・レジデンスとして招聘された。主な作品に、『Voicing Pieces』(2016)、『Pillow Talk』(2019)、『Letters from Attica』(2020)がある。2022-2027年には、アントワープの DE SINGEL にクリエイター・イン・レジデンスとして招聘される。

ルリー・シャバラ [インドネシア | 音楽・パフォーマンス]

新作

ラウン・ジャガッ：極彩色に連なる声

Raung Jagat: Drone of Colours

10.9 (土) 17:00

10.10 (日) 17:00

会場 romeシアター京都 サウスホール

上演時間 60分 (予定)



Photo by Wandirana

声の民主化?! ジョグジャカルタ⇄京都のリモートセッション!

インドネシアのジョグジャカルタを拠点とする、実験的音楽デュオ「SENYAWA」のメンバーで、ボイス・パフォーマーとして自身のバンド「ZOO」を率いるルリー・シャバラ。今回、自ら開発した即興的コーラス手法「ラウン・ジャガッ」を用いたパフォーマンスの新作を、公募で集まる出演者と、他のミュージシャンとのコラボも多く手がけるバンド、テニスコートとともに披露する。注目は、コロナ禍で来日できないシャバラが、リモートで出演者や演出家の筒井潤とともに作品を創作し、指揮者不在でパフォーマンスを行う自身初の展開プラン。AIを搭載した色彩システムを即興の手がかりに、演者たちは自由にことばやリズムを変え、他者の声に共鳴させて「声」で遊びながら、セッションを繰り広げていく。音高の変化なしに長く持続される音で、民族音楽や伝統音楽で主に用いられる「ドローン音楽」の要素も今作には欠かせないものとなっている。

声は人間にとって最も身近な楽器であり、「ラウン・ジャガッというコーラスシステムによって、音楽のプロでない人も自由に自分の声を発見できる。とくに指揮者がいない環境は、さらなる“声の民主化”を目指す機会になると思うんだ」(ルリー・シャバラ)。パンデミックの逆境とテクノロジーを活かし、声の可能性を追求したパフォーマンスの新たなフェーズへ向かう本作をお見逃しなく。

ルリー・シャバラ Rully Shabara

1982年、インドネシア、パル生まれ。人間の声を創作のメディアムとして探求し、言語を主題として実験を行う。シャバラはまた、インドネシアの実験的デュオ「SENYAWA」のメンバーであり、コンセプチュアルパンクバンド「Zoo」のメンバーでもある。声に関わるコンセプトベースのプロジェクトを数多く行い、原始的表現や即興について探究するために人間の声に注目したワークショップを世界中で行っている。灰野敬二やステイヴン・オマリー、大友良英、Rabih Beaini、不破大輔、グレッグ・フォックス等の著名な国際的アーティストとも多数コラボレーションがある。



Photo by Herlambang Jati

筒井潤 Jun Tsutsui

演出家、劇作家、公演芸術集団 dracom リーダー。2007年京都芸術センター舞台芸術賞受賞。Segal Center Japanese Playwrights Project 2018において日本現代演劇の優れた戯曲の1つとして dracom の代表作『ソコナイ図』が選出される。dracomとしてサウンド・ライブ・トーキョー 2014 や東京芸術祭ワールドコンペティション 2019、NIPPON PERFORMANCE NIGHT (2017、2019、デュッセルドルフ)に参加。個人として過去に山下残、マレビトの会、維新派、桃園会、羽鳥嘉郎、akakilike、悪魔のしるし、ホー・ツーニエン、荒木優光などの公演や作品に参加。



テニスコート Tenniscoats

さやと植野隆司のバンド、1996年より。楽器のような歌と声のようなアコースティックギターで、世界中どこへでも出かける。近年では、日独英混合バンドの Spirit Fest、管楽団さやえんどうでの活動、JP インディコンペレーション編纂、西成子どもオーケストラワークショップなどがある。コラボレーションでのアルバムも多数リリースしており、相手の音楽基盤に乗りながら楽曲へと昇華する。2020年、minnakikeru.com 立ち上げ。



Photo by Ramond Roemke

和田ながら × やんツー [日本 | 演劇・美術]

擬婉 再創作

Couvade

10.16 (土) 13:00 / 17:00 ★

10.17 (日) 13:00 / 17:00

★ポスト・パフォーマンス・トーク

会場 京都芸術センター 講堂

上演時間 90分 (予定)



したため『擬婉』(2019) 演出：和田ながら 美術：林葵衣

Photo by Yuki Moriya

母ではない「わたしたち」が、妊娠をシミュレートする理由

妊娠・出産をめぐる日本の現状は、明るくはない。少子高齢化に直面しているものの、「産み育てやすい」環境整備は遅々として進まず。一方で「産まない自由」に対する社会的圧力も未だやむことはない。この閉塞的な状況に【擬婉(ぎべん)】という、一風変わった習俗の再起動を通してアプローチをする、演出家 和田ながら。本作は和田の2019年初演作品を、今回が舞台作品への初参加となるメディアアーティスト やんツーをコラボレーターに迎え、リクリエーションするものだ。

広辞苑によれば、擬婉とは「妻の出産の前後に、夫が出産に伴う行為の模倣をする風習」。この極めて原始的かつ“演劇的”なフレームを借りることで、男女の出産未経験の出演者たちは、“母だけが可能”とされてきた妊娠・出産体験を舞台上で解放し、シミュレートしていく。再創作にあたり、10代の出演者を公募でキャスティングする点も注目だ。次代を担う若者と、テクノロジーを基盤にしながらも常に身体的なアプローチを続けてきたやんツーの参加によって、本作は同時代的なアップデートを重ねながら、新しい想像力を持って「産むこと」への問いを投げかけていくことだろう。

和田ながら Nagara Wada

2011年2月に自身のユニット「したため」を立ち上げ、京都を拠点に演出家として活動を始める。日常的な視力では見逃してしまう膨大な細部を言葉と身体で接写する、あるいは捉えそこないつまづきさを連ねるように作品を制作。美術家や写真家など異なる領域のアーティストとも共同作業を行う。2015年、創作コンペティション「一つの戯曲からの創作をとおして語ろう」vol.5 最優秀作品賞受賞。2018年、こまばアブラ演出家コンクール観客賞受賞。2019年より地図にまつわるリサーチプロジェクト「わたしたちのフリーハンドなアトラス」に取り組んでいる。2021年度セゾン文化財団セゾン・フェローI。



Photo by Yuki Moriya

やんツー yang02

1984年神奈川県生まれ。2009年多摩美術大学大学院デザイン専攻情報デザイン研究領域修了。人間の行為を情報技術が代替する自律型の装置を作品として制作。デジタルメディアを基盤に、人間の身体性や表現の主体性を問う。菅野創との共同作品『SENSELESS DRAWING BOT』で、第15回文化庁メディア芸術祭アート部門新人賞(2012)を、同じく『アバターズ』で第21回優秀賞(2018)を受賞。近年の個展に「\_prayground」(rin art association、2019)。展覧会に、「DOMANI・明日展」(国立新美術館、2018)、「Vanishing Mesh」(山口情報芸術センター[YCAM]、2017)、あいちトリエンナーレ2016(愛知県美術館)などがある。



Photo by Daisuke Omori

フィリップ・ケーヌ [フランス | 演劇]

## もぐらたち & 上映会「Crash Park: The Life of an Island」

The Moles & A Screening of Crash Park: The Life of an Island

10.16 (土) 16:00

10.17 (日) 16:00

会場  京都芸術劇場 春秋座

上演時間 

もぐらたち: 30分 (予定)

上映会「Crash Park: The Life of an Island」: 90分



The Moles © Christian Knorr



Crash Park © Christian Knorr

### 演劇の魔術師が描く、人類のユートピアと終末

フランスを代表する演出家、ビジュアルアーティストであるフィリップ・ケーヌ。今回は、2018年初演の演劇作品『Crash Park: The Life of an Island』の上映及び、2016年初演のパフォーマンス作品『もぐらたち』をcontact Gonzoと協働し、KYOTO EXPERIMENTバージョンとして発表する。2作品に共通するテーマは人類の本質と幸福だ。『Crash Park』は、墜落した飛行機の乗客がたどり着いた島での漂流記。原始的な土地、島民との多幸感あふれる生活を通して、人類のユートピアやディストピアを描き出す。『もぐらたち』では、等身大の巨大モグラたちが地上の世界で、コミカルでアクロバットなパフォーマンスを展開!! より傲慢で言葉を発しないことを除けば、彼らの生態は人間そのもの。モグラと観客の間で生まれるコミュニケーションを通して、あらためて人間という存在を見つめ直す機会になることだろう。

「演劇の魔術師」とも称されるケーヌ作品の独特なユーモア、クリエイティブな舞台装置にも注目を。環境問題、現代社会への鋭い風刺を含みながら放たれる独創的な世界観を存分に味わってほしい。



© Christian Knorr

### フィリップ・ケーヌ Philippe Quesne

1970年生まれ。フランスのアーティスト、演出家、舞台美術家。パリでビジュアルアート、デザイン、舞台美術を学ぶ。2003年に Vivarium Studio を画家、俳優、ダンサー、ミュージシャンが協力して演劇の革新に取り組むラボラトリーとして設立。ケーヌが開発・上演するパフォーマンスのドラマツルギーは、空間、セット、身体の強い相互関係に基づいている。舞台セットはしばしば、作業用スタジオや小宇宙を表す「ビバリウム」となる。彼の学際的なパフォーマンスは、数多くの国際フェスティバルで紹介されている。ケーヌは2014年より、パリ郊外にあるナンテール・アマンディエ劇場の共同ディレクターを務め、『The Night of the Moles』(2016)や『Crash Park: The Life of an Island』(2018)などを制作している。舞台作品のほか、公共空間やランドスケープのためのパフォーマンスやインターベンションを展開している。2019年より、プラハ・カドリエンナーレのフランス館のキュレーターを務める。

松本奈々子、西本健吾 / チーム・チープロ [日本 | ダンス]

京都イマジナリー・ワルツ 新作

Kyoto Imaginary Waltz

10.22 (金) 16:00 ★

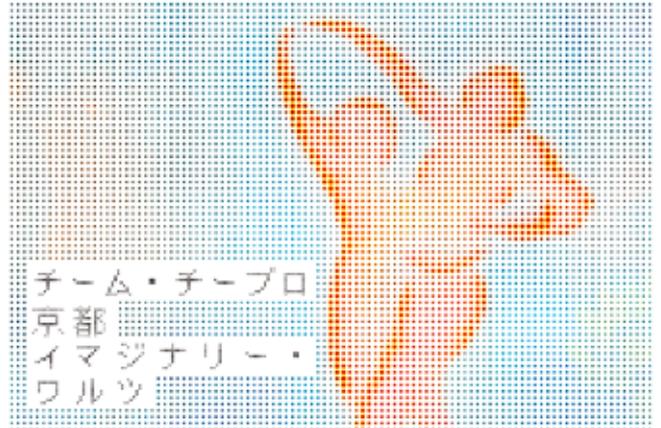
10.23 (土) 14:00 / 19:00 ★

10.24 (日) 17:30

★ポスト・パフォーマンス・トーク

会場  THEATRE E9 KYOTO

上演時間  60分 (予定)



© Shuzo Hosoya

想像上の他者と踊るワルツの行方

3歳から20歳までバレエを踊り、その後自らの身体のあり方を問い直してきたパフォーマーの松本奈々子、主にドラマトゥルクの役割を担う西本健吾が共同で演出を行う「チーム・チープロ」は、綿密なりサーチを積み重ね、“身体”を媒介に個人の記憶と集団の記憶を再構築するパフォーマンスユニット。KYOTO EXPERIMENT初の公募プロジェクトで選出され、2021年・2022年の2年間にわたり京都芸術センターで制作し、THEATRE E9 KYOTOにて上演する。

初年度の制作テーマは「ワルツ」。2020年の緊急事態宣言発令後に松本が始めた、想像上のものや人、風景と踊ることを試みる「イマジナリー・ワルツ」プロジェクトを、京都バージョンとして展開するものである。日本で明治以降に踊られるようになったワルツは、男女が身体を接触させて踊ることから、その道徳的な問題が繰り返し指摘されてきた過去がある。ここを出発点に、当時とは別の意味で身体的接触が制限される現代において、触れ合うこと、手を取り合うことについて問いかけていく——。上演テキストは松本の個人史、京都で行うリサーチやインタビューを元に構成する予定。その朗読から浮かび上がる、「他者」と踊るワルツのかたち、そして2年をかけて孵化していく、テキストと身体の新しい関係性にも注目したい。



松本奈々子、西本健吾 / チーム・チープロ

Nanako Matsumoto, Kengo Nishimoto / team chiipro

松本奈々子と西本健吾によるパフォーマンス・ユニット。身体と身振りの批評性をテーマに活動を続けてきた。近年は、都市における具体的な場所や時間から一つのステップを見出し、そのステップが喚起する複数のコンテキストとパフォーマーの身体感覚や記憶の交差をあつかうダンス作品を制作している。主な作品に、『20世紀プロジェクト』(2017-2018)、『皇居ランニングマン』(2019-2020) など。

## 鉄割アルバトロスケット [日本 | 演劇]

### 鉄都割京です

Iron Crack to-Kyo

10.22 (金) 19:00

10.23 (土) 14:00

10.24 (日) 15:00

会場  京都芸術センター フリースペース

上演時間  90分 (予定)



Photo by Manabu Numata

### 全力で不条理に突進する面々による、痛快オフビート演劇！

11年ぶりに KYOTO EXPERIMENT に帰ってくる「鉄割アルバトロスケット」は、東京・根津の寄席で結成され、劇作家・小説家の成井昭人が脚本を手がけるパフォーマンス集団。浪花節や落語、ブルース、ビートニックなど、民衆の放浪芸とカウンターカルチャーからインスパイアされ、寸劇・歌・踊りを織り交ぜた1-5分の出し物をダダと矢継ぎ早に繰り出すスタイルが特徴だ。そうして光を当てるのは、社会から「ちょっぴりズレてる人々」の日常のあれやこれや。世の不条理にあえて全力で飛び込んでいくパフォーマーたちの滑稽で痛快な姿を通して、物事の本質をグサッとえぐり出していく。

そんなズレてる面々が躍動する世界は、とかくクリーンな現代都市では失われつつある風景でもある。パンデミックで不寛容さが倍増した時代ではなおさらだ。阿呆、無常、アウトローが炸裂する鉄割の世界は、もはやノスタルジーになってしまうのか、それとも——? 観客の間近で、見世物小屋的に展開していく演目を体感し、ぜひ、あなた自身の目で見極めてほしい。



Photo by Yayoi Arimoto

### 鉄割アルバトロスケット Crack Iron Albatrosskett

1997年、パフォーマンス集団「鉄割アルバトロスケット」を東京・根津の寄席「宮永会館」にて結成。一公演につき、1-5分からなる演目約50本を矢継ぎ早に繰り出す。寸劇・歌・踊りなどが多様に無関係な様式で混ざり合いながら、古典落語、浪花節、ロックンロール、パンク、文学、映画、食べ物などなど、ごった煮の要素を織り交ぜ、感覚をアウトフォーカスしつつ「そこはかたない無常観・無意味状態のルール・高尚な曖昧・理不尽な感動・完成された不自然・間の抜けた刺激・感動的な阿呆らしさ」が自然に出てくる内容になっている。

劇作・出演の成井昭人は小説『すっぱん心中』(2013年、第40回川端康成文学賞受賞)、『のろい男 俳優・亀岡拓次』(2016年、第38回野間文芸新人賞受賞)など、作家活動も行っている。

## 関かおり PUNCTUMUN [日本 | ダンス]

### むくめくむ

MukuMeku Mu

10.22 (金) 19:00

10.23 (土) 16:30 ★

10.24 (日) 13:00

★ポスト・パフォーマンス・トーク

会場  ロームシアター京都 ノースホール

上演時間  65分



Photo by Kazuyuki Matsumoto

### ひそやかな音の世界で、時間や生命の密度を描き出す

「むくめくむ」とは、「うごめく」や「剥く」、「芽」、命の始まりを表す「産(む)す」などを意味する古語をつなげたことば。生命がかたちを持つ以前の、神話的世界を想起させるタイトルを冠した本作は、多くの振付賞を受賞してきた注目の振付家・ダンサー 関かおりが率いる、関かおり PUNCTUMUN による最新作(初演:2020年2月)だ。

「身体を無数の点の集合と捉え、丹念に感覚を探っていく」という関のダンスにおけるアプローチは、観る側のわたしたちの知覚も呼び覚ますものだ。ダンサーたちは一瞬一瞬に神経を注ぎ、ゆっくりと、進み、ころがり、うごめきながら、一秒という時間を拡大した世界へわたしたちを誘う。驚くことに、時折、遠くで微かなざわめきが聴こえる以外は、一切の音が使われていないかのようだ。観客は自ずと感覚を研ぎ澄まし、展開を見守ることとなる。いずこから漂ってくる香りも、五感を先鋭化させるための仕掛けだ。こうして少しずつひそやかに、踊るもの、観るものが互いに感覚を共鳴させていった先——いのちの気配や“音”が立ち上り、言葉にならない感情が湧き起こることに気づくだろう。それは、「今」という奇跡の瞬間を見つめ、時間や生きることを問い直す体験なのかもしれない。

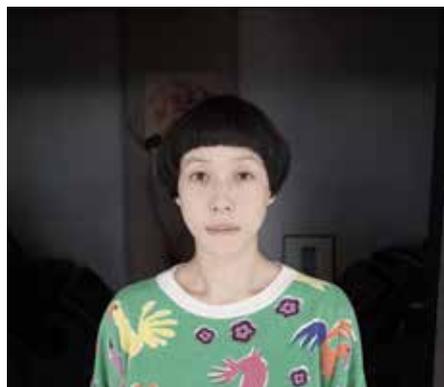


Photo by Yasuo Kuboi

#### 関かおり Kaori Seki

関かおり PUNCTUMUN (プンクトゥムン) 主宰。ヒトや動植物の生態や感覚機能、言語外コミュニケーションなどに興味を持つ。視覚を通して観客の皮膚感覚等に働きかける試みや、嗅覚から得る刺激を作品要素に取り入れた作品を国内外で上演。2012年岩淵貞太との共作により、横浜ダンスコレクション若手振付家のための在日フランス大使館賞、同年トヨタ コレオグラフィーアワード2012次代を担う振付家賞、2013年エルスール財団新人賞、2017年日本ダンスフォーラム (JaDaFo) 賞2016受賞。2014-17年度公益財団法人セゾン文化財団ジュニア・フェロー。2021年度よりセゾン・フェロー II。

## Moshimoshi City ～街を歩き、耳で聴く、架空のパフォーマンス・プログラム～

10.8 (金) - 10.10 (日)

10.15 (金) - 10.17 (日)

各日受付 ☎ 11:00 - 17:00

会場 ☎ 京都市内各所

受付：ミーティングポイント

※受付で渡される地図を手に、各参加アーティストが選定した場所を自由に回るパフォーマンス



©Yuya Tsukahara

### 声から広がる空想舞台。もしも、街のあちこちで作品を演じたら――？

京都市内の各所を舞台に、さまざまなアーティストが架空のパフォーマンス作品を構想し執筆したテキストを、「声」を通して観客に共有するプログラム。観客がフェスティバルのミーティングポイントで渡されるマップを手に各場所を訪ね、指定された方法で音声を再生すると、実際には存在しないはずのパフォーマンスが、土地の風景と相まって脳内で立ち上がっていく。つまり、わたしたちは自らの想像力によって「観劇」を行うことができるのだ。

この企画が生まれたきっかけは、コロナ禍で劇場に集う難しさを感じる一方、オンライン配信に限界を感じ始めていたことにもある。アーティストたちの構想は必ずしも実現可能ではないが、だからこそ刺激的だ。わたしたちの想像力を働かせることで、彼らの自由な空想やクリエイションを自らの体験にすることができるのだから。いつもの街の風景も、彼らの想像力を介することで、より新鮮な気持ちで眺めることができるだろう。さあ、パソコンを閉じて街へ出よう。内へと向かいがちなポスト・コロナ時代の思考や身体を、新しい演劇的装置を使って外の世界へ開いていこうではないか。

参加アーティスト：

岡田利規 (演劇作家 / 小説家 / チェルフィッチュ主宰)

神里雄大 (作家 / 舞台演出家)

中間アヤカ (ダンサー)

ヒスロム (アーティストグループ)

増田美佳 (ダンサー / 文筆家 / mimacul 主宰)

村川拓也 (演出家 / 映像作家)

## ☞ Super Knowledge for the Future [SKF]

### ☞ 日本仏教における“アヴァンギャルド”：平安初期の比叡山と天台仏教の文化

10.2 (土) 13:30-15:00

会場：ロームシアター京都 会議室 2

ゲスト：亀山隆彦（龍谷大学 世界仏教文化研究センター研究員 / 京都大学 ことの未来研究センター研究員 / 上七軒文庫）

聞き手：KYOTO EXPERIMENT 共同ディレクター

荒木優光による公演の舞台は、比叡山ドライブウェイ駐車場。これにちなみ、会場となる土地の歴史・文化に光を当てる企画。比叡山には 806 年に最澄が開いた天台宗の総本山延暦寺があり、当時この地には、僧侶の国際交流、新しい価値観の興隆といった思想の一大ムーブメントがあった。平安初期の仏教文化から、現代社会を考察する。

### ☞ ヴォイス・オブ・ヴォイド展 トークシリーズ①アーティスト・トーク

10.3 (日) 13:00-14:30

会場：京都芸術センター ミーティングルーム 2

ゲスト：ホー・ツーニエン ※オンライン登壇の可能性あり

吉崎和彦 (YCAM・「ヴォイス・オブ・ヴォイド」展キュレーター)

聞き手：KYOTO EXPERIMENT 共同ディレクター

シンガポールを拠点とするアーティスト、ホー・ツーニエンによる『ヴォイス・オブ・ヴォイドー虚無の声』展。東南アジアの歴史に深い関わりを持つ、第二次世界大戦期の日本を取り上げ、山口情報芸術センター [YCAM] とのコラボレーションにより VR など映像テクノロジーを駆使して制作された本展について、ホー氏と YCAM の担当キュレーター 吉崎和彦氏を招いて語っていただく。



Photo by Ichiro Mishima  
Courtesy of Yamaguchi Center for Arts and Media [YCAM]

### ☞ ヴォイス・オブ・ヴォイド展 トークシリーズ②身体論的にひもとく西田哲学について

10.9 (土) 13:00-14:30

会場：京都芸術センター ミーティングルーム 2

ゲスト：上原麻有子（京都大学大学院文学研究科教授）

聞き手：KYOTO EXPERIMENT 共同ディレクター

『ヴォイス・オブ・ヴォイドー虚無の声』展の主要なテーマである「京都学派」の思想と哲学。その本質や背景について、京都大学大学院文学研究科日本哲学史専修主任教授の上原麻有子氏に西田哲学と芸術の接続点から解説していただく。特に、西田哲学の身体論を中心に読み解いていく。

## 出町座 × KYOTO EXPERIMENT 上映企画

10.8(金)-10.14(木) ※上映時間調整中

会場：出町座(京都市上京区三芳町133)

出町座とKYOTO EXPERIMENTが共同で企画する上映企画がスタート！2021年春に上演した垣尾優によるダンス作品『それから』制作現場に密着したドキュメンタリー映像(監督・撮影：金成基、初公開)と、2016年秋に上演した太田省吾作、シャンカル・ヴェンカテシュワラン演出『水の駅』記録映像を1週間限定上映する。舞台芸術と映像の新たな関係性を見出す格好の機会となるに違いない。



垣尾優『それから』 Photo by Hana Sawada



太田省吾作、シャンカル・ヴェンカテシュワラン演出『水の駅』  
Photo by Yuki Moriya

## ビートピクニック(みんなで作るフィールドレコーディングワークショップ)

10.10(日)13:00-15:00

会場：ロームシアター京都 会議室2

ファシリテーター：アリー・モブス(サウンドデザイナー)

音や声を扱う作品にフォーカスしている2021 AUTUMNにちなみ、日常的に身の周りに存在している「音」を発見し、体感するワークショップ。身近な環境音で音楽を作るコミュニティ「Beat Picnic」がオーガナイザーとなり、参加者がそれぞれ好きな場所で採集してきた音をミックスし、みんなでひとつのサウンドスケープ作品を作りあげていく。



Beat Picnic @ DotFes 2019

## 森とアート～京都芸術芸能の守護者京都三山

10.14(木)19:00-20:30

会場：京都市内

ゲスト：鎌田東二(宗教学者・京都大学名誉教授/上智大学特任教授)

吉岡洋(美学者・京都大学こころの未来研究センター 特定教授)

聞き手：KYOTO EXPERIMENT 共同ディレクター

「人間と自然の関係性」について、京都の森林文化を例に宗教学者 鎌田東二氏と美学者 吉岡洋氏が対談を行う。三方を山に囲まれた京都では古来、山や森を神聖なものとして恐れ敬い、信仰や祭祀の対象としてきた。山に分け入って過ごすことは自然や自己と対話し、鋭敏な感覚を養う時間であったが、明治以降の近代化で失われてきたものでもある。こうした感性に触れること、あるいは近代化の過程について考えることは、Showsの作品を読み解くヒントにもなるだろう。

## ☞ 性教育のいま

10.17 (日) 15:00-16:30

会場：京都芸術センター フリースペース

ゲスト：古久保さくら (大阪市立大学人権問題研究センター所長)

あかたちかこ (児童自立支援施設専門講師)

聞き手：KYOTO EXPERIMENT 共同ディレクター



古久保さくら

Showsの演劇作品『擬娩』が取り上げるのは、妊娠と出産。人権やジェンダー、性の多様性とも関わるこのテーマにとって、教育を通して得る知識は男女問わず重要だ。では、現代の日本の性教育はどうなっているのか？ ジェンダー研究者の古久保さくら氏と思春期アドバイザーのあかたちかこ氏と共に、性教育のいまについて考える。



あかたちかこ

## ☞ コミュニティラジオ@ミーティングポイント

会期中、週1回ペースで開催

会場：ミーティングポイント

フェスティバル会期中、運営スタッフによるコミュニティラジオを配信。各作品の制作秘話から、日々の会場で起こる出来事、最新イベント情報まで、あらゆる角度からフェスティバルの「舞台裏」を紹介する。ミーティングポイントが配信スタジオとなり、多彩なゲストも登場予定。実験的作品とみなさんの距離をぎゅっと縮める、音声配信プログラムに乞うご期待！ 詳細は公式ウェブサイトへ。

## ☞ 批評プロジェクト 2021 AUTUMN

講師：森山直人 (演劇批評家 / 京都芸術大学 舞台芸術研究センター所長補佐)

応募締切：11月初旬

演劇批評家の森山直人氏を講師に迎え、実験的舞台芸術の批評・評論を学ぶプロジェクト。参加要件は、対象演目の『擬娩』を鑑賞し、レビューを書いて応募すること。ここから選出された応募者(若干名)は森山氏による個別指導を受け、内容をブラッシュアップすることができる。完成原稿はKYOTO EXPERIMENTの公式サイト、及び次回のフェスティバルマガジンに掲載予定。芸術批評やライティングを学んでみたい人はぜひチャレンジを！



したため『擬娩』(2019) 演出：和田ながら 美術：林葵衣  
Photo by Yuki Moriya

## ミーティングポイント

### 目印は、巨大ローラーコースター！

フェスティバル開催期間、ローム・スクエアに出現する「ミーティングポイント」は、観客とフェスティバルとをつなぐ交流の場。オランダを拠点に活躍する美術家、オスカー・ピータースが手がける巨大な木製ローラーコースター「The Moving Mountain」が“会場そのもの”となり、トークイベントやワークショップを開催したり、常駐スタッフによるおすすめプログラム紹介を行います。

巨大コースターに乗って会場をめぐるのは、人間ではなく、【ライダー】と呼ばれるオブジェたち。この【ライダー】は、伝統工芸・現代アートの各部門でプランを公募するほか、市民向けワークショップで制作も行います。ここに集う作品たちが紡いでいく、もうひとつの“物語”にもご期待を。これまでにないエンタメ感、スケール感が加わったミーティングポイントを、ぜひご体験ください。



The Savage, 2020



The Wild, 2017

#### 開場日時

10.1(金) - 10.24(日)

13:00-19:00(月・水 休場)

※夜間に公演がある日は 15:30-21:30

※天候等により開場スケジュールが変更となる場合があります。

ご来場前に特設ウェブサイトをご確認のうえ、ご来場ください。

#### 特設ウェブサイト

<https://www.kyotoex-meetingpoint.com>

会場：ロームシアター京都 ローム・スクエア

観覧料：無料(ワークショップは有料/要事前申込/先着順)



#### オスカー・ピータース Oscar Peters

1981年オランダ・ボルゲル生まれ。アムステルダム拠点。ピータースは、道具や日用品とさまざまな素材を組み合わせ、動きを伴う立体作品や、人が入り込める大規模なインスタレーションを制作している。身近な素材を用いて、ユーモアや暴力性、アイロニーを絶妙なバランスで織り交ぜ、笑いや可笑しみの構造を最大限に利用した作品は、素早く見るものの心を掴みつつ、環境や政治、暴力など現代社会が抱えるさまざまな課題を、鮮やかに切り取ってみせる。2018年に、京阪電車なにお橋駅にある「アートエリア B1」で開催された鉄道芸術祭 vol.8「超・都市計画～そうならうとする CITY～」にて、巨大な木製コースター型の立体作品「The Underground」を発表。

\*令和3年度日本博イノベーション型プロジェクト

「KYOTO EXPERIMENT ミーティングポイント」プロジェクト～京都の文化資源を活かした交流の広場

## ☐アーティスト・トーク

オスカー・ピーターズによる作品は、KYOTO EXPERIMENT 2021 AUTUMNのランドマークであり、まさしく芸術表現と人々が交流し、対話する場となります。トークでは、作者のオスカー・ピーターズとフェスティバル共同ディレクターたちが本作とフェスティバルの狙いや見どころをご紹介します。

日時：10.7(木)18:00-19:30 ※逐次通訳あり

会場：ロームシアター京都 ローム・スクエア & オンラインライブ配信 (KYOTO EXPERIMENT のYouTube チャンネル)

出演：オスカー・ピーターズ ※オンライン出演の可能性あり

川崎陽子、塚原悠也、ジュリエット・礼子・ナップ (KYOTO EXPERIMENT 共同ディレクター)

視聴無料・申込不要

## ☐公募コンペティション「The Moving Mountain」作品ライダーコンペ

「ローラーコースター」といっても、そこを走るのは「人」を乗せた乗物ではなく、様々な「作品」を乗せた【ライダー】たちです。本作の重要な要素であるこの〈作品ライダープラン〉を、①伝統工芸 ②現代美術 の2部門で広く募集します。

伝統と現代両方の表現が刺激を与え合い息づく京都文化を体現するような、京都でしか見ることのできない作品展示を目指しています。オスカー・ピーターズとの協働による、刺激的で実験的な試みにぜひご参加ください。



The Underground, 2018 Photo by Yuki Moriya

募集締切：8.25(水)必着

対象：伝統工芸分野または現代美術分野で、実作者として活動されている方

詳細の募集要項は特設ウェブサイトへ。

## ☐ワークショップ

### 「ローラーコースターを走るライダーをつくらう」

どなたでも参加できるライダー制作ワークショップです。ローラーコースター型作品を見ながら、自分なりのライダーを思い描き、オスカー・ピーターズと一緒にアイデアをかたちにしていきます。ワークショップの詳細は、8月中旬に特設ウェブサイト上にて公開予定です。



The Underground, 2018 Photo by Yuki Moriya

日時：①10.2(土) ②10.3(日) 両日とも 13:30-15:30

会場：ロームシアター京都 ローム・スクエア内 (屋根のある屋外スペースでの開催)

対象：小学生以上 定員：1日5名 (要事前申込・先着順)

参加費：1,000円 / 1名

講師：オスカー・ピーターズ (アーティスト) ※逐次通訳あり、dot architects (建築家ユニット)

## ☐〈作品ライダー〉のアイデアイラスト募集!

フェスティバル開催期間中、オスカー・ピーターズのローラーコースター型作品を実際に見ながら、その場で〈ライダープラン〉を考えて描くことができます。完成したイラストは、会場に随時掲示していきます。みなさんのイラストで、KYOTO EXPERIMENTとオスカーの作品を盛り上げましょう!

## ☞ 関連プログラム

### ☞ 京都芸術大学 舞台芸術研究センター × KYOTO EXPERIMENT 国際シンポジウム 舞台芸術の創造と受容—その「構造」と「システム」の現在形と可能性について

9.25 (土) セッション①「コレクティブな制作体制」14:00-16:00

セッション②「共同ディレクションとフェスティバル」17:00-19:00

9.26 (日) セッション③「作品と観客」16:00-18:00

会場：ロームシアター京都 パークプラザ 3F 共通ロビー

料金：無料

モデレーター：森山直人 (京都芸術大学教授 / 演劇批評家)、

内野儀 (学習院女子大学教授 / パフォーマンス研究・演劇批評) ほか

パネリスト：横堀ふみ (NPO 法人 DANCE BOX プログラム・ディレクター)、西尾佳織 (劇作家・演出家)、

ジューン・タン (ファイブアーツセンター)、JK アニコチェ (パフォーマンス作家)、

ダヴィド・カベシーニャ (アルカンタラ・フェスティバル共同芸術監督)、

アンナ・ヴァグナー (フランクフルト・ムゾントウム劇場 ドラマトウルク)、

スルジット・ノングメイカパム (Nachom Arts Foundation ディレクター) ほか

舞台芸術の創作や発表においては、様々なレイヤーで旧来のシステムが存在している。本シンポジウムでは、こうした構造に疑問を投げかけ、新たな制作方法を模索するアーティストやフェスティバルを取り上げ、特にアジア圏の動向に注目しながら国際的な流れを可視化する。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により「従来通り」の活動が困難であるいまだからこそ、これからの舞台芸術創造の可能性が見出せるのではないか。

主催：京都芸術大学 舞台芸術研究センター、KYOTO EXPERIMENT

本シンポジウムは JSPS 科研費 JP20H00009 の助成を受けたものです。

### ☞ セゾン文化財団 × KYOTO EXPERIMENT

#### 創造環境イノベーションプログラム報告会 + シンポジウム

#### 「舞台芸術における多様性とは？ 日本における外国コミュニティと地域との関係」

10.8 (金)：第1部 17:15-18:15、第2部 18:30-20:00

第1部〈「多様な観客を創造する—英語を活用した“飛び石”プロジェクト」報告会〉

岡本純子 (セゾン文化財団) より創造環境イノベーションプログラムについての紹介

スピーカー：ジュリエット・ナップ (KYOTO EXPERIMENT 共同ディレクター)、豊山佳美 (KYOTO EXPERIMENT 広報)

第2部〈シンポジウム〉

モデレーター：川崎陽子、塚原悠也、ジュリエット・ナップ (KYOTO EXPERIMENT 共同ディレクター)

スピーカー：安里和晃 (京都大学 文学研究科国際連携文化越境専攻 准教授)、ほか

会場：ロームシアター京都 パークプラザ 3F 共通ロビー

料金：無料

KYOTO EXPERIMENT で取り組んできた「多様な観客を創造する—英語を活用した“飛び石”プロジェクト」の取組みと成果を紹介する。プロジェクトはセゾン文化財団の助成事業であり、舞台芸術の観客創造のために行われたものである。3年間のプロジェクトを通じて見出したことは、観客の多様化および、そうした観客層とのコミュニケーションの重要性であった。第1部では、芸術機関、芸術祭においてどのように多様性を目指すべきかという課題について考察する。第2部では移民・移民労働者のエンパワーメントと社会統合を研究している京都大学 文学研究科 准教授の安里和晃をゲストとして招き、芸術祭や大学における多様性、マイノリティコミュニティとの関係性について考える。

主催：公益財団法人セゾン文化財団、KYOTO EXPERIMENT

## 提携プログラム

### 豊岡演劇祭 2021

9.9(木) - 9.20(月・祝)

会場：豊岡市、養父市、香美町

主催：豊岡演劇祭実行委員会

(特非) コミュニティアートセンタープラッツ /

(一社) 豊岡観光イノベーション / 兵庫県但馬県民局 /

豊岡ツーリズム協議会 / 豊岡市 / 養父市



### 田中泯×森本ゆり×寄田真見乃

【“音の気持とオドリの気持”-オドリ聞コエテ音見エル-】

9.30(木) 19:00

10.1(金) 19:00

10.2(土) 15:00

10.3(日) 15:00



会場：THEATRE E9 KYOTO

主催：THEATRE E9 KYOTO (一般社団法人アーツシード京都)

### ニューイ・ブランシュ KYOTO 2021

10.1(金)

会場：京都市内各所

料金：入場無料

主催：京都市、アンステイチュ・フランセ関西(旧 関西日仏学館)



### 太陽劇団「金夢島 L'ÎLE D'OR」

11.6(土)、7(日)(予定)

会場：ロームシアター京都 メインホール

主催：ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都市

共催：京都新聞

共同招聘：公益財団法人東京都歴史文化財団東京芸術劇場

特別協賛：公益財団法人稲盛財団

## 👉 More Experiments



フェスティバルと同時期に京都府下で行われる公演・イベント・展示情報が京都文化芸術オフィシャルサイト KYOTO ART BOX 内の「More Experiments」特集ページにて、まとめて閲覧いただけます。

「More Experiments」という名称には、KYOTO EXPERIMENT だけがその時期に発表される表現ではなく、もっとさまざまな表現が京都各所で展開されているイメージを込めました。

これらの公演情報は「#more\_ex」のハッシュタグで SNS にも投稿されていきます。ぜひ検索してみてください！

## 📖 ブックフェア

日程：10.1(金)-10.31(日)

会場：京都岡崎 蔦屋書店

参加アーティストの関連書籍やフェスティバルのキーワード「もしもし?」をテーマに集めた KYOTO EXPERIMENT ブックフェアを「京都岡崎 蔦屋書店」で開催!

ここでしか購入できない、KYOTO EXPERIMENT オリジナルグッズも販売します。

よりフェスティバルを楽しむために、観劇前後にぜひ立ち寄りください。



## 会場

### ロームシアター京都 / ミーティングポイント (ローム・スクエア内)

京都市左京区岡崎最勝寺町 13

Tel 075-771-6051 rohmtheatrekyoto.jp

- ・京都市バス 32、46 系統、京都岡崎ループ「岡崎公園 ロームシアター京都・みやこめっせ前」下車すぐ
- ・京都市営地下鉄東西線「東山駅」下車、徒歩約 10 分
- ・駐車場なし、駐輪場あり



ロームシアター京都, Photo by Shigeo Ogawa

### 京都芸術センター

京都市中京区室町通蛸薬師下る山伏山町 546-2

Tel 075-213-1000 www.kac.or.jp

- ・京都市営地下鉄烏丸線「四条駅」、阪急京都線「烏丸駅」下車、22・24 番出口より徒歩 5 分
- ・駐車場なし、駐輪場あり



京都芸術センター, Photo by Omote Nobutada

### 京都芸術劇場 春秋座

京都市左京区北白川瓜生山 2-116 京都芸術大学内

Tel 075-791-8240 www.k-pac.org

- ・京都市バス 3、5、204 系統「上終町京都造形芸大前」下車すぐ
- ・叡山電車「茶山駅」下車、徒歩約 10 分
- ・駐車場なし、駐輪場あり (原付・バイクはご遠慮下さい)

### THEATRE E9 KYOTO

〒601-8013 京都市南区東九条南河原町 9-1

Tel 075-661-2515 askyoto.or.jp/e9

- ・JR「京都」駅八条口から徒歩約 14 分
- ・JR・京阪「東福寺」駅から徒歩約 7 分
- ・京都市営地下鉄「九条」駅から徒歩約 11 分
- ・駐車場なし



京都芸術劇場 春秋座, Photo by Toshihiro Shimizu

### 京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA

〒604-0052 京都府京都市中京区押油小路町 238-1

Tel 075-253-1509 gallery.kcua.ac.jp/

- ・地下鉄：「二条城前」駅 (2 番出口) 南東へ徒歩約 3 分
- ・京都市バス「堀川御池」下車すぐ
- ・駐車場・駐輪場なし

### 比叡山ドライブウェイ

〒606-0000 京都市左京区修学院尺羅ヶ谷四明ヶ嶽 (比叡山頂)

Tel 077-529-2216 (比叡山自動車道株式会社) hieizan-way.com

- ・会場へのアクセスは専用バスのみ



THEATRE E9 KYOTO

## チケット情報

**2021年8月10日(火)11:00よりチケット発売開始!**

※ベギウム・エルジャス『Voicing Pieces』のみ、チケット発売日は9月上旬を予定。

ホー・ツーニエン	入場無料					
チェン・ティエンジュオ [展示]	入場無料					
	前売券					
	一般	ユース (25歳以下) ・学生	高校生以下	ペア (取扱い 前売のみ)	当日券	席種
チェン・ティエンジュオ [ライブパフォーマンス 1,2]	¥3,500 ※各回	¥3,000 ※各回	¥1,000	¥6,500 ※各回	前売料金 +¥500 (高校生以下同額)	入場券
荒木優光	¥3,500	¥3,000		¥6,500		自由席
ベギウム・エルジャス	¥2,500	¥2,000		¥4,500		入場券
ルリー・シャバラ	¥3,000	¥2,500		¥5,500		自由席
和田ながら×やんツー	¥3,000	¥2,500		¥5,500		自由席
フィリップ・ケーヌ	¥2,500	¥2,000		¥4,500		自由席
松本奈々子、西本健吾 / チーム・チープロ	¥2,500	¥2,000		¥4,500		自由席
鉄割アルバトロケット	¥3,000	¥2,500		¥5,500		自由席
関かおり PUNCTUMUN	¥3,000	¥2,500		¥5,500		自由席
Moshimoshi City	¥1,500	¥1,000		¥500		—
Super Knowledge for the Future [SKF]	入場無料・要予約 * SKFのプログラムはウェブサイトよりご予約ください。 * 出町座での上映会のみ予約不要・有料					自由席

## 🎫 チケット取扱

### [ 全 Shows プログラム取扱 ]

🎫 KYOTO EXPERIMENT チケットセンター (11:00-19:00、日曜・祝日休 [ フェスティバル開催期間中は無休 ])

オンライン | <https://kyoto-ex.jp> (セブン-イレブン引取)

電話予約 | 075-213-0820 (セブン-イレブン引取)

窓口 | 京都市中京区少将井町 229-2 第7長谷ビル 6F

### [ 一部 Shows プログラム取扱 ]

🎫 ロームシアター京都チケットカウンター (10:00-19:00、年中無休 [ 臨時休館日を除く ])

オンライン | <https://www.e-get.jp/kyoto/pt/> (要事前登録)

電話予約 | 075-746-3201

窓口 | 京都市左京区岡崎最勝寺町 13 1F

### 🎫 チケットぴあ

オンライン | <http://t.pia.jp> 電話予約 | 0570-02-9999

※オンラインは年中無休、24 時間受付

※その他、各会場でもプログラムのチケットを取扱予定。(各会場で開催するプログラムのチケットのみ販売)

[ 京都芸術センター、京都芸術劇場チケットセンター、THEATRE E9 KYOTO、京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA ]

## 🎫 フリーパスチケット

KYOTO EXPERIMENT チケットセンターではお得なフリーパスチケットを取り扱っています。

※前売のみ ※本人のみ有効

### フリーパス / 学生フリーパス 【枚数限定】

フリーパス | ¥20,000 学生フリーパス | ¥12,000 (要学生証提示)

※ Shows 有料公演 10 演目をご覧いただけます。(1 演目につき 1 回。チェン・ティエンジュオ [ ライブパフォーマンス 1,2 ] はいずれか 1 回。)

## 🎫 Shows チケット割引

当日受付で、対象公演の観劇済み公演チケットの半券をご提示いただくと、Shows プログラムの当日券が前売料金にてご購入いただけます。【対象公演：KYOTO EXPERIMENT 2021 AUTUMN プログラム】

※チケット 1 枚につき 1 名、1 回のみ有効。当日券のみの取扱で、残席がある場合に限りです。

※当日券の有無については、公演当日に KYOTO EXPERIMENT の公式 Twitter などでご案内します。

- ・各公演の受付開始は開演の 60 分前です。
- ・ユース・学生、高校生以下チケットをご購入の方は公演当日、証明書のご提示が必要です。
- ・ペアは 2 枚分の料金です。同一演目・日時の公演を 2 人で観劇する場合のみ有効です。
- ・団体割引 (10 名以上) を設けております。詳細は KYOTO EXPERIMENT チケットセンターまで。
- ・車椅子でお越しのお客様は、各料金の ¥500 引きとなります。車椅子または障害者手帳をお持ちのお客様の介助者は、1 名無料となります。ご予約・お問合せは KYOTO EXPERIMENT チケットセンターまで。
- ・演出の都合上、開演時刻を過ぎると入場できない場合がございます。その際払い戻しはいたしません。

スケジュール

10月

Shows	上演時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
		Fri	Sat	Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat	Sun	Mon
ホー・ツーニエン ヴォイス・オブ・ヴォイドー虚無の声 YCAM とのコラボレーション	—	展示 10:00-20:00 ※ 10.1のみ 22:00まで										
チェン・ティエンジュオ 牧羊人	ライブパフォーマンス 180分(予定)	展示 16:00-22:00 ライブパフォーマンス	20:00	20:00	休館日				展示 11:00-19:00			休館日
荒木優光 サウンドトラックフォーミッドナイト屯	50分(予定)	16:00 出発	16:00 出発	16:00 出発								
ベギウム・エルジャス Voicing Pieces	30分								12:00-19:00 ※ 15分毎に1名ずつ入場			
ルリー・シャバラ ラウン・ジャガッ：極彩色に連なる声	60分(予定)									17:00	17:00	
和田ながら×やんツー 擬婉	90分(予定)											
フィリップ・ケーヌ もぐらたち& 上映会「Crash Park: The Life of an Island」	120分(予定)											
松本奈々子、西本健吾 / チーム・チープロ 京都イマジナリー・ワルツ	60分(予定)											
鉄剣アルバトロケット 鉄都割京です	90分(予定)											
関かおり PUNCTUMUN むくめくむ	65分											
Moshimoshi City ～街を歩き、耳で聴く、架空のパフォーマンス・プログラム～	—								受付 11:00-17:00			
Super Knowledge for the Future [SKF]	①日本仏教における「アヴァンギャルド」		13:30									
	②ヴォイス・オブ・ヴォイド展 アーティストトーク ③「身体論敵にひもとく西田哲学について」			13:00						13:00		
	⑤ビートピクニック										13:00	
Kansai Studies												
ミーティングポイント		13:00-19:00 (月・水 休場) ※夜間に公演がある日は 15:30-21:30 ※天候等により開場スケジュールが変更となる場合があります。										
			ワークショップ 13:30	13:30				アーティストトーク 18:00				

★はポスト・パフォーマンス・トーク



## 📖 開催クレジット

主催 京都国際舞台芸術祭実行委員会

京都市

ロームシアター京都 (公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)

京都芸術センター (公益財団法人京都市芸術文化協会)

京都芸術大学 舞台芸術研究センター

THEATRE E9 KYOTO (一般社団法人アーツシード京都)

助成 文化庁文化芸術振興費補助金 (国際芸術交流支援事業)

独立行政法人日本芸術文化振興会

一般財団法人地域創造

公益社団法人企業メセナ協議会 2021 芸術・文化による社会創造ファンド

協賛 株式会社長谷ビル

機材協力 株式会社流 (RYU)、有限会社クワット、株式会社タケナカ



令和3年度日本博イノベーション型プロジェクト  
(「KYOTO EXPERIMENT ミーティングポイント」プロジェクト  
～京都の文化資源を活かした交流の広場)



京都国際舞台芸術祭実行委員会

- 委員長 天野文雄 (京都芸術大学 舞台芸術研究センター所長)
- 副委員長 森川佳昭 (公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団専務理事)
- 委員 井上俊彦 (公益財団法人京都市芸術文化協会事務局長)
- 小倉由佳子 (ロームシアター京都 事業担当係長)
- 小崎哲哉 (ICA 京都 / REALKYOTO FORUM 編集長)
- 蔭山陽太 (一般社団法人アーツシード京都理事 / THEATRE E9 KYOTO 支配人)
- 畑律江 (毎日新聞大阪本社学芸部専門編集委員)
- 松本守弘 (京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化芸術企画課担当課長)
- 吉岡洋 (美学者 / 京都大学こころの未来研究センター特定教授)
- 監事 宮田英喜 (公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団 / ロームシアター京都副館長)
- 森貴之 (京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化芸術企画課長)

京都国際舞台芸術祭実行委員会事務局

- 共同ディレクター 川崎陽子、塚原悠也、ジュリエット・礼子・ナツプ
- 事務局長 垣脇純子
- 事務局 井上美葉子、門脇俊輔、渡邊裕史
- 広報 當間芽、豊山佳美、前田瑠佳
- 制作 小島寛大、芝田江梨、清水翼 (KANKARA Inc.)、山崎佳奈子 (KANKARA Inc.)
- [ロームシアター京都] 齋藤啓、眞鍋隼介
- [京都芸術センター] 八木志菜、吉峰拓
- [京都芸術大学 舞台芸術研究センター] 川原美保、後藤孝典
- [THEATRE E9 KYOTO] 福森美紗子
- テクニカルディレクター 夏目雅也
- テクニカルコーディネーター 北方こだち、小林勇陽、さかいまお
- インターン 中村友紀、平田千春、松井ジュン
- ドキュメントコーディネーター 山口紀子
- 和文英訳 Art Translators Collective、ウィリアム・アンドリュース
- アートディレクション・デザイン 小池アイ子
- 映像・写真ディレクション slide//show (松見拓也、金成基、嶋田好孝、守屋友樹)
- ウェブディレクション bank to LLC. (光川貴浩、早志祐美、松田寛志)
- ウェブデザイン 吉田健人 (bank to LLC.)
- ウェブプログラム・コーディング 人見和真 (bank to LLC.)
- アドバイザーボード レザ・アフィシナ (ニューメディア・アーティスト / 「ルアンルパ」メンバー・アーティストティックボード / 「ルアンルパ アーツラボラトリー」ディレクター)
- 小山田徹 (美術家 / 京都市立芸術大学教授)
- アンナ・ヴァグナー (フランクフルト・ムゾントゥルム劇場 ドラマトゥルク)